SPORTS HIROSHIMA

スポーツひろしま

第147号

令和5年（2023年）8月21日

発行 （公財）広島県スポーツ協会 〒730-0011 広島市中区基町4番1号 県立総合体育館内
TEL（082）221－4600 FAX（082）222－8040

“ひろしまストリート陸上プラス” 開催!!

新型コロナウイルス感染拡大のため過去3年、室内で開催してきた本協会など主催の「ひろしまストリート陸上プラス」が6月11日、4年ぶりに青空の下で繰り広げられました。

広島G7サミット開催の影響で、1か月延期されたひろしまフラワーフェスティバルの恒例イベントとして「スト陸」も復活。広島市出身の為末大さんや木村文子さんら陸上トップ選手のトークや小学生ランナーとの対決のほか、ゲストとして加わった体操界のレジェンド、内村航平さんが華麗な跳馬の演技を披露し、どよめきと歓声、そして大きな拍手が会場を包みました。 （詳細は2～3ページへ掲載）

歓声に包まれ、“ひろしまストリート陸上プラス”
平和大通りで4年ぶり、妙技に拍手

ストリート陸上は同市佐伯区出身、男子400m障害日本記録を持ち世界選手権で2度銅メダルの為末さんが呼びかけて2011年にスタート。トップアスリートの妙技はフラワーフェスティバルの呼び物となりました。しかし、コロナ禍でフェスティバルは中止され、これまで3回は県立総合体育館アリーナで代替開催してきました。

久しぶりに青空の下で復活したスト陸に、五輪選手が集いました。為末さんは2000年シドニー、2004年アテネ、2008年北京の3大会に出場。同市安佐北区出身の木村さんは2012年ロンドン、20年東京大会の女子100m障害、「木村さんの友人」という女子短距離の髙橋萌木子（ももこ）さんはロンドン五輪リレー要員でした。

会場の視線を釘付にしたのは体操の内村さんでした。北京から東京大会まで4度の五輪に連続出場し、ロンドンと2016年リオデジャネイロで個人総合連覇を果たし、五輪で獲得したメダルは計7個（金3、銀4）。世界選手権では個人総合6連覇を飾るなどスーパーアスリートにふさわしい成績を残し、22年に現役を引退しています。

大勢のギャラリーが見守る中、恒例の男子棒高跳びの3選手によるデモンストレーションから開始しました。セットされたゴム製バーの高さは5m。このイベントにすべて参加してきた37歳の萩原翔選手（尾道商高教）は惜しくも失敗。下瀬翔貴選手（広島特別支援学校教）もクリアできませんでした。しかし、2人目の蔵田雅典選手（観音高教）は鮮やかに跳び越え、喝さいを浴びました。自己ベストとなる5m30こそ失敗に終わりましたが、迫力あるジャンプを披露してくれました。

呼び物の内村さんの体操演技は、トラックに特設した跳馬で繰り広げてくれました。手前のロイター板で大きくジャンプし、高さ135cmの跳馬を高々と跳び越えていきました。しかも、ワイヤレスマイクを握ったまま、跳馬に手をつくことなく空中で難なく回転して見せました。圧巻は、締めくくりに挑戦した「2回宙返り半分ひねり」の妙技でした。空中に大きなアーチをかけた内村さんの迫力あるジャンプと難度の高い技に触れ、子供たちは目を輝かせていました。

マイクに向かった内村さんは自らの幼少期を振り返り「最初の大会は最下位でした。でも失敗を繰り返して今があるのです」と語り、「誰でも可能性はあります。新しい技への挑戦や日々の指導は怖かったけれど、環境は変わっても練習の積み重ねが必要です」と優しく呼びかけていました。

もう一つの呼び物、小学生の50mダッシュには昨年度の県ランキング上位を占めた男女各6選手が挑みました。出場したのは以下の顔ぶれでした。

男子1組・梶山知寛（五日市東小）小野蒼汰（駅家小）佐藤士元（三良坂小）▽同2組・西村岳（緑井小）古川悠哉（五日市観音西小）堀口蓮太（田野浦小）

女子1組・難波琉亜那（阿戸小）山路舞香（蔵王小）石井咲（地御前小）▽同2組・香川珠妃（五日市観音西小）吉田夏帆（宮園小）三宅にこ（可部小）

各組1位となった男女各2人は、女性トップスプリンターとの対決に臨みました。女子の難波、香川両選手はトップハードラーだった木村さんとのレースでした。小学生が好スタートを切って、「（21年に）引退後、50mを走るのは初めて」という木村さんを慌てさせました。難波選手はそのままトップを維持してゴールイン。

男子のレースも白熱しました。小学生が挑んだ五輪ランナー髙橋さんは女子200mで日本歴代2位、100mは同3位の記録を持つスプリンター。髙橋さんを挟んで1レーン梶山、3レーン西村両選手が一斉にダッシュ。ややスピードを緩めた髙橋さんを梶山選手が追走し見事にトップを奪いました。

7秒23で男子レースを制した梶山選手は「一流のアスリートと走るのは初めての体験で緊張した」と話し、西村選手は「一生に一度の体験ができた」と喜んでいました。男子をしのぐ7秒12の好記録をマークした女子の勝者、難波選手は「いつ（木村さんに）追い抜かれるか怖かった」と言い、香川選手は「とてもうれしかった」と感想を口にしていました。

レース後木村さんは「肉離れを心配しながら走りました」と笑顔を見せ、髙橋さんは「小学生の圧がすごかった。（一緒に走った）2人とも速かった」と健闘をたたえていました。一方で、レース前には木村さんがスキップ指導をするなど、小学生スプリンターに「速く走る」コツを伝授していました。

約1時間半にわたって繰り広げたストリート陸上プラスのラストに、ステージから為末さんら出演アスリートが、感想や期待を込めて次のようにメッセージを残してくれました。

為末さん　「暑い中、4年ぶりの開催に内村効果もあって大勢が来場してくれてうれしい。サミットで広島の名が世界に報じられ、平和でなければならないと実感しました」

木村さん　「野外でのストリート陸上参加は初めての経験ですが、多くの人が訪れてくれて感動しました。走るのは楽しいし、もっと陸上を好きになってもらいたいです」

髙橋さん　「競技を離れて数年たちますが、久しぶりに選手の世界に戻ったようでした。（50mダッシュに）本気で戦っている小学生たちの姿を見ることができ感謝しています」

内村さん　「演技を身近に見る機会を通じて、皆さんに体操の面白さや興味を持ってもらえればうれしい。（子ども達には）チャンスはたくさん来るので、興味のあることに全力で取り組んでいってください」

広島銀行｜ひろぎん証券｜しまなみ債権回収｜ひろぎんヒューマンリソース｜ひろぎんキャピタルパートナーズ
ひろぎんリース｜ひろぎんエリアデザイン｜ひろぎんクレジットサービス｜ひろぎんITソリューションズ

（2023年7月21日現在）2307

「スーパージュニア選手育成プログラム2023」トライアル開催！

今年も5月27日(土)に福山会場、6月3日(土)、4日(日)に広島会場でスーパージュニア選手育成プログラムのトライアルを開催しました。

このトライアルで選考された約40名が、一年間を通してさまざまなスポーツを体験する「スーパージュニア選手育成プログラム」に参加することができます。

今年のトライアル参加者は、応募があった県内の小学4･5･6年生約130名。

県内各地の小学校から参加者が集まりました。

学校での体力テストとは違い、周りは知らない子ばかりで緊張感がありますが、ベストを尽くして頑張ってほしいと思います!

福山会場の開会行事では、主催者を代表して公益財団法人広島県スポーツ協会 堂本ひさ美 強化副委員長が「チャレンジをすることはとても大切。トライアルでの選考が良くても悪くても、これから色々なことにチャレンジしてほしい。今日は思いきり力を出して頑張ってください。」とあいさつしました。

広島会場の開会行事では、主催者を代表して公益財団法人広島県スポーツ協会 河野裕二 強化委員長が「このトライアルに参加できるのは、保護者の協力あるからこそ。感謝の気持ちをもって、きついと思ったところからもう一歩踏ん張って思いきり頑張ってください。」とあいさつしました。

準備運動が終わったら、いよいよ測定開始です。観客席の保護者の方も、カメラを構え真剣な表情で見守ります。

測定種目は、上体起こし･40m走･長座体前屈･立ち幅跳び･ソフトボール投げ･20mシャトルランの6種目。

学校でも行ったことがある測定なので、測定が終わるたび選手からは「学校では…」「学校より…」の声が聞こえます。でも、泣いても笑っても今日の測定で決まってしまいます。

準備運動

上体起こし

20mシャトルラン

ソフトボール投げ

40m走

立ち幅跳び

長座体前屈

ソフトボール投げ･20mシャトルランの測定では、毎年良い記録が出ると会場は大盛り上がりです。
今年も体育館の壁に勢いよく当たる遠投があると、選手･保護者･スタッフからは歓声があがり、選手同士で好記録を出した選手へ拍手する姿も見られました。また、シャトルランの測定では、100回を超える選手もいて、自分自身に追い込みをかけ、最後まで必死に走る姿には、会場全体から拍手が起こりました。

今回のトライアルの選考は既に終了し、選考結果は各選手の記録とともに、参加者全員に通知を行いました。体験プログラムは、7月から始まり、計6回のプログラムを実施する予定です。

なぎなた

スピードスケート

また、トライアル終了後には、スピードスケート･なぎなたの競技紹介が行われました。紹介の時には、トライアル参加者と同年代の選手が、競技団体の代表としてデモンストレーションを行う場面もあり、選手達にとっては競技がより身近に感じられたのではないでしょうか。
これをきっかけに、今回合格となった人も、残念ながらそうでなかった人も、いろいろなスポーツへの挑戦をしてみてほしいと思います。新たな発見をしたり、隠れた才能を見つけたりすることができるかもしれません。

最後に、今年もトライアルの測定にご協力をいただいたT&TWAMサポート株式会社のトレーナーの皆様、広島県小学生体育連盟の皆様、補助員としてお手伝いをいただいた広島市立大学、福山平成大学の学生の皆様に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

「スーパージュニア選手育成プログラム2023」第１回体験プログラム

7月22日（土）、広島県立総合体育館において、第1回体験プログラムを開催しました。約130名が応募したトライアルの選考を突破した51名のスーパージュニア選手が参加する体験プログラムの始まりです。

開会行事では、公益財団法人広島県スポーツ協会強化委員会の 河野裕二 委員長から、激励の言葉とチャレンジすることの大切さ、またチャレンジすることを応援してくれる環境に感謝の気持ちを持つことの重要性についてお話がありました。また、公益財団法人広島県スポーツ協会強化委員会の 堂本ひさ美 副委員長から、配布した選手Tシャツのデザインの意味についての説明がありました。
緊張の面持ちながら楽しみに胸を膨らませている選手たち、ファイナルトライアルまでの成長を楽しみにしているスタッフも希望に胸を膨らませています。

第1回体験プログラムは、午前が「からだのバランストレーニング」、午後は「ハンドボール」です。

午前の「からだのバランストレーニング」は、一般社団法人日本コアコンディショニング協会の竹原亮紀マスタートレーナーが指導してくださいました。
最初に、講義形式で保護者の皆様と一緒に体の土台づくりの必要性について学びました。その中で、スポーツスキルを向上させるためには、「運動スキル」がとても大切であり、実践を含めながら、姿勢を整えるトレーニング･体幹の固定力を高めるトレーニングなど、様々なバランストレーニングの説明を受けました。
講義が終わると、次は実践でのトレーニングが始まります。まずは、ウォーミングアップとしてダッシュで壁までタッチしてかえってきたり、ジャンプをしたり、二人一組で手を繋いで走ったり色々な動作を加えながら身体を温めていきます。

次に、選手手帳にも入っている「四つばい：背骨曲げ伸ばし」、「四つばい：上半身ひねり」等々自宅でできるトレーニングについて説明を受けながら、実際に体を動かしながら、体の使い方を学んでいきます。一見簡単そうに見えるトレーニングでも、体幹にとても効くトレーニングとなっています。

次に、跳び箱や平均台などを使ったジャンプのトレーニングを行いました。

今回は選手手帳にのっている家庭でできるトレーニングもしたので、自宅に帰っても身体づくりを続けてほしいと思います。

午後の「ハンドボール」は、イズミメイプルレッズの選手、広島県ハンドボール協会の皆さんに指導をしていただきました。

大きな円になり準備運動そして、ランニングをします。最初は、ボールに慣れるためドリブル競争からスタートです。イズミメイプルレッズの選手のお手本をみながら、しっかり真似をして選手たちは、ボールに慣れていきます。

次に、敵陣からボールを奪い合うゲームです。ボールの投げ方・扱い方だけでなく、ゲームを通してハンドボールに大切な周りを見る目、味方に指示を出す大切さを学びます。

キャッチボール・シュート練習では、最初のうちは上手に投げることができませんでしたが、イズミメイプルレッズの選手たちにアドバイスをもらいながら練習を続けると、どんどん上達して鋭いボールを投げることができるようになりました。

そして、最後はお待ちかねの試合です。イズミメイプルレッズの選手達にも試合に入ってもらいました。最初はボールに皆が集まってしまってうまくパスがつながらないチームもありましたが、チーム内で作戦会議を開いたり、イズミメイプルレッズの選手達にアドバイスをもらったりして、コートも広く使えるようになり、最後はナイスプレー・ナイスパス・ナイスシュートが続出していました。選手たちの成長ぶりにイズミメイプルレッズの選手たちも感激しておりました。

最後に、指導していただいたイズミメイプルレッズの選手からは、「スーパージュニアの選手たちとハンドボールができてとても楽しかったです。是非試合にも見に来てください。」とお言葉をいただきました。

また、今回の保護者を対象としたサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会の田村進先生による「メンタルサポート」をテーマに講演していただきました。受講された保護者の方々は、良いパフォーマンスを発揮するために最適な集中の状態や、目標設定の最適レベル、子供のやる気を引き出すための声のかけ方などについて、熱心に耳を傾けていました。ジュニア選手を育成するうえでは、各家庭でのサポートは欠かせません。スポーツの指導現場と家庭が一緒になって選手の成長を見守りたいと思います。よろしくお願いします。

今回も広島県小学生体育連盟の先生方やT&TWAMサポート株式会社のトレーナーの方、広島文教大学の学生方など、多くの皆さんにご支援・ご協力いただきました。ありがとうございました。

広島スポーツ余話 ⑥

英語駆使したスポーツ交流の使者、松本瀧蔵

米国仕込みの巧みな英語を操った衆議院広島1区選出の代議士松本瀧蔵(たきぞう)は、戦前戦後のスポーツ外交に欠かせぬ存在だった。日米野球実現に奔走し、五輪やアジア大会役員を務めるなど縦横に活躍した。没後65年。政界、学界、スポーツ界で発揮した手腕を知る人は少なくなった。

1946年4月10日投票の戦後初の衆院選広島全県区(定員12)には40人が立ち、45歳の松本は5位当選した。肩書は明治大学教授。翌47年からの小選挙区広島1区で通算5度激戦を制した。この間、芦田均や鳩山一郎ら政府首脳の信任は厚く、外務政務次官や官房副長官としてサンフランシスコ講和会議(1951年)や日ソ国交正常化交渉、フィリピン賠償交渉(56年)など戦後日本の重要外交局面に立ち会っている。

松本は「帰米2世」である。1901年広島市で生まれ、3歳の時に廿日市市出身で在米の養父と暮らすため母親と渡米した。カリフォルニア州フレズノでのハイスクール時代、日系人野球チームを創設し陸上競技のハードラーでもあった。

万能選手フランク・マツモト(母親の再婚に伴い一時ナルシマ姓)は、工科大学で航空工学を学んでいたが、邦人排斥の動きに失望して帰国。1923年、広陵中学校(現広陵高校)4年に編入し、強豪の野球部へ入部した。この年、広陵野球部は初の全国大会(第9回全国中等学校優勝大会)へ進み、松本はマネジャー役だった。5年になると9番、中堅手のレギュラーをつかんだものの、地区予選準決勝で広島商に惜敗した。

広陵同期の銭村辰巳とともに1925年、明治大学予科へ進学した松本は野球部へ。本科(商科)3年の1929年には明大野球部の米国(および欧州)遠征に主務として参加し、在米18年で培った英語力を駆使して遠征メンバーから賛辞が相次いだという。

松本の本領発揮は卒業後である。恩師から英語能力を見込まれて大学院へ進み、講師、助教授、教授と昇進。この間、アメリカンフットボール部をつくり立教、早稲田とともに東京学生連盟を結成する。同時に、プロ野球発足前には読売新聞社の米大リーグ選抜招請野球に協力して1931、34年の2度通訳として帯同、ベーブ・ルースらと交流を深めている。1936年にはベルリン五輪本部員(調査員兼外国関係主事)も務めた。

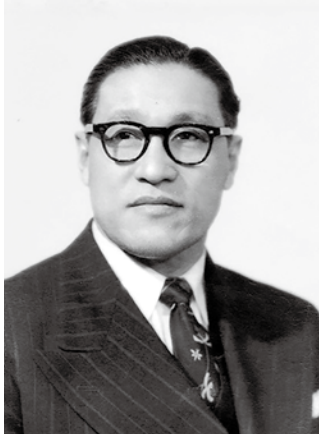
戦後、代議士となった松本は、再びスポーツ界への関与を強めた。進駐した連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)との重要なパイプ役となったのだ。英語に堪能なうえ、ハーバード大学留学(1937年)で人脈を広げていた。GHQ高官には同窓生も多く、松本の交渉で甲子園や神宮、後楽園球場の接収解除が実現したとされる。1949年のプロ野球シールズ来日の際は実行委員長を務めている。

こんなエピソードもある。1947年、日本水泳チームがロサンゼルスの全米選手権に招待された。「フジヤマのトビウオ」こと古橋広之進らが世界新記録を次々とマークした。選手団長は日本水連顧問の松本だった。プールサイドの報道陣に三段跳びの織田幹雄(朝日新聞)がいた。ともに最高司令官マッカーサー元帥の知己を得ていた。マ元帥は1928年アムステルダム五輪米選手団長でもあったのだ。

スポーツ界での松本への評価は高く、アジア競技連盟評議員や日本体協理事、日本オリンピック委員、日本社会人野球協会副会長など重責が増した。2度のアジア大会(1951,54年)やヘルシンキ五輪(52年)で日本選手団本部役員に就任するなど国際大会では欠かせぬ存在だった。1954年には広島カープのフィリピン遠征顧問として同行している。ところが、脂の乗り切った1958年11月2日、肝硬変でこの世を去った。まだ、働き盛りの57歳だった。

松本の功績をたたえて2004年に日本フットボール殿堂、2016年には野球殿堂にそれぞれ顕彰された。複数の殿堂入りは稀有である。一方、故郷広島ではその名を冠した松本瀧蔵旗争奪社会人野球大会が続いている。この3月、大会は第70回を迎えた。　(敬称略)

広島県スポーツ協会広報委員長　渡辺勇一(広島経済大学名誉教授)



松本　瀧蔵
(日本野球殿堂博物館)

マツダは、スポーツを通じて地域の活性化や発展に貢献するとともに、
様々なステークホルダーの皆様に愛されるチーム作りに取り組んでいます。

mazda

本県スポーツの振興にご支援ご協力をいただいている特別会員企業ならびに団体の皆様です！

公益財団法人広島県スポーツ協会が行う本県スポーツの振興、県民の体力向上及び選手の育成強化事業の各事業推進のため、特別会員の皆様からの寄附金を有効に活用させていただいています。

また、公益財団法人久保スポーツ振興基金・公益財団法人広島県スポーツ振興財団・野田育英会にもご支援・ご協力をいただいております。

皆様ありがとうございます。

（50音順）

株式会社IHI	オタフクホールディングス株式会社	ゼネラル建設株式会社	東武トップツアーズ株式会社広島支店	広島文化学園大学
医療法人あかね会	株式会社カキダ	ゼネラル興産株式会社	東洋観光ホールディングス株式会社	株式会社広島ホームテレビ
株式会社アスティ	株式会社紀陽	セノー株式会社広島支店	株式会社ニシキプリント	株式会社広島マツダ
株式会社アド・キョウサイ	株式会社共立	株式会社ダイクレ	西日本電信電話株式会社	株式会社ヒロタニ
株式会社アドプレックス	キリンビール株式会社	大成建設株式会社中国支店	日本たばこ産業株式会社広島支社	株式会社フジタ　広島本店
公益財団法人天野スポーツ振興財団	近畿日本ツーリスト株式会社広島支店	株式会社田頭タイル	医療法人社団おると会 浜脇整形外科病院	フマキラー株式会社
株式会社荒谷建設コンサルタント	株式会社KUBOXT	株式会社千鳥	広交観光株式会社	豊国工業株式会社
株式会社アンフィニ広島	グランドプリンスホテル広島	中国化薬株式会社	株式会社広交本社	堀口海運株式会社
株式会社石﨑ホールディングス	株式会社弘法	中国計器工業株式会社	広島駅弁当株式会社	株式会社増岡組
学校法人石田学園 広島経済大学	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社	中国新聞印刷株式会社	広島ガス株式会社	マツダ株式会社
株式会社イズミ	GO&DO 篠原税理士法人	中国高圧コンクリート工業株式会社	広島菅公学生服株式会社	株式会社ミカサ
有限会社伊藤久芳堂	五洋建設株式会社中国支店	株式会社中国新聞社	株式会社広島銀行	三島食品株式会社
ANAクラウンプラザホテル広島	株式会社ザイエンス	中国電機製造株式会社	広島県スポーツ用品協同組合	ミズノ株式会社中国・四国支社
SMBC日興証券株式会社	株式会社サクラオブルワリーアンドディスティラリー	中国電力株式会社	広島県農業協同組合中央会	株式会社みづま工房
株式会社エディオン	株式会社サニクリーン中国	株式会社中国放送	広島市観光ホテル旅館組合	三吉屋食品株式会社（風車・水車）
株式会社エネルギアL&Bパートナーズ	三親電材株式会社	中電技術コンサルタント株式会社	広島市信用組合	株式会社むさし
株式会社エポカフードサービス	株式会社JTB広島支店	株式会社中電工	株式会社広島情報シンフォニー	名鉄観光サービス株式会社
株式会社オオケン	株式会社島屋	中電工業株式会社	広島信用金庫	株式会社もみじ銀行
大塚製薬株式会社広島支店	医療法人仁康会	学校法人　鶴学園	広島テレビ放送株式会社	株式会社モルテン
大之木建設株式会社広島支社	有限会社スポーツセンター	T&Tタウンファーマ株式会社	広島電鉄株式会社	株式会社やまだ屋
株式会社大野石油店	巣守金属工業株式会社	ティーエスアルフレッサ株式会社	株式会社広島東洋カープ	株式会社ユアーズ
株式会社小川長春館	瀬戸内海印刷株式会社	株式会社デルタプリント	広島トヨタ自動車株式会社	株式会社リーガロイヤルホテル広島
奥アンツーカ株式会社広島営業所	瀬戸内海汽船株式会社	株式会社テレビ新広島	広島日野自動車株式会社	湧永製薬株式会社

本協会では、本県スポーツのさらなる充実・発展のため、ご支援ご協力をいただける新規特別会員企業の拡大に努めています。公益法人への寄附金には、税法上の優遇措置が適用されます。是非、スポーツに関心のある企業の皆様をご紹介ください。